

2022年度 京都保育福祉専門学院  
自己評価及び学校関係者評価報告書

2022年3月  
自己評価委員会

1. 学校の教育目標

キリスト教精神により保育奉仕者・社会福祉専門職者の養成に力を注ぐことを基盤として、社会状況の変化に対応した養成教育を行う。社会福祉に関する専門職員になるための必要な知識と技能を修得し、キリスト教精神により円満な人格と豊かな情操を養い、社会福祉事業に献身する事のできる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画（2020年からの継続）

保育福祉の担い手を要請する上で根幹としてのキリスト教精神による教育の更なる推進  
教育のあり方を改革し、更に幅広い学生が学べる学校になる

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目  | 評価結果 |
|---|------|
| 理念・目的・育成人材像は定められているか<br>(専門分野の特性が明確になっているか) | 4    |
| 学校における職業教育の特色は何か                            | 4    |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                | 3    |
| 理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか      | 3    |

① 課題

- ・ 建学理念や目的などを学生が理解することで、社会福祉の現場で働くための心の支えにもなりえると考え、ガイダンスやホームルームで伝えているが、深く浸透しているとはいえない。  
職業教育とは知識や技術のみならず、人材育成であるということを教職員の共通理解としたい

② 今後の改善方策

- ・ 学校独自科目でもあるチャペルアワーは、キリスト教精神論にふれる場である。チャペルアワーでのお話しを通して「福祉」や「奉仕」を実践するために備えておきたい心情や誰かに心をよせる共感する力をも身につけられるようにしていく。

(2) 学校運営 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目  | 評価結果 |
|---|------|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                        | 4    |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか                       | 3    |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか<br>有効に機能しているか | 3    |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか                        | 4    |
| 教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか              | 3    |
| 業務や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか             | 3    |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか                     | 4    |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                   | 3    |

① 課題

- ・業務の効率化を図るための校務支援システムを導入しているが、軽減にはいたっていない。
- ・事業計画等は大枠で把握しているが、教務や財務等の部門での進捗管理の情報共有ができていない。

② 今後の改善方策

- ・教職員の業務標準化を定め業務の簡素化をし、多能工化的な働きをすることで、少ない教職員でも運営に支障がないようにする。
- ・各部門の進捗管理が情報共有できるように、学校内組織編成について教職員が理解し、全体の事業運営の進捗状況を確認する。

(3) 教育活動 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目   | 評価結果 |
|--|------|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                                  | 4    |
| 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4    |

|  |   |
|--|---|
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか                                    | 4 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や、開発などが実施されているか。       | 4 |
| 関連分野の企業の企業・関係施設等、業界団体等との連携によりカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか  | 4 |
| 関連分野における実質的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等が体系的に位置づけられているか     | 4 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか   | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか                                  | 3 |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか                                     | 4 |
| 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                           | 4 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか                       | 4 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか     | 4 |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                     | 3 |

#### ① 課題

- ・連携施設との協働での職業教育には、受け入れ側との綿密なカリキュラムや計画を準備していたが、コロナ渦もあり、学生を受け入れることが難しく実施できないことが頻発した。学生が社会福祉の現場に直接ふれる機会が減り、実践的な職業教育のあり方を考えなければいけない。
- ・教職員の研修計画が専門分野に特化した内容が取り入れられていない。

#### ② 今後の改善方策

- ・連携施設での演習や実習だけではなく連携施設職員を講師として授業を行い、実体験や考察などを聞くことで、社会福祉の現場に対するイメージをより具体化してもてるようにする。
- ・教職員の研修計画がより専門的分野を学べるものにする。また研修を通して、連携施設職員と協働して学ぶことで実践教育内容に結び付けられるようにする。

(4) 学修成果 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目           | 評価結果 |
|----------------|------|
| 就職率の向上が図られているか | 4    |

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 資格取得率の向上が図られているか                      | 4 |
| 退学率の低減が図られているか                        | 3 |
| 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか            | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

### ① 課題

- ・退学数は年々減少しているが、経済的理由や健康上の問題で退学を申し出る学生に対して効果的な対応ができなかった。また、学業不振や心身不調からの不登校になるケースもありコロナ渦の中、学生がモチベーションを維持して学業が続けられるような支援が必要である。
- ・卒業と同時に取得できる保育士資格を用いて社会福祉の現場にでるが、児童・障がいなどの施設によっては、資格の取り扱いの性質が違うことを学生が把握できていない報告があったことが課題である。

### ② 今後の改善方策

- ・一人暮らしの学生には特に配慮をし、学業と生活を両立できるよう一日のスケジュール調整や食事などの栄養管理にも助言ができるように、スクールカウンセラーと教職員が情報共有をしながら、学生に関わっていく。
- ・連携施設や法人内施設と連携して、様々な職種の話しを聞ける機会をもち学生が自分の将来のキャリアを描くための判断材料とできるようにする。

(5) 学生支援 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目                      | 評価結果 |
|---------------------------|------|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか    | 3    |
| 学生相談に関する体制は整備されているか       | 4    |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 3    |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか        | 3    |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか     | 3    |
| 学生の生活環境への支援は行われているか       | 3    |
| 保護者と適切に連携しているか            | 4    |

|   |   |
|---|---|
| 卒業生への支援体制はあるか                           | 3 |
| 社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか                | 3 |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

- ・学校独自の貸与型の奨学金制度がある。(賀集奨学基金・同窓会) 利用している学生の返済が滞っているケースもあり奨学金基金がそのまま減少して利用ができなくなることも考えて、将来的には新たな奨学金制度が必要である。
- ・日本学生支援機構や地方の奨学金を利用している学生が多く、奨学金申込等に関わる事務的な支援を必要とする学生が多くいる。奨学金が下りた時点での学費の分納や延納で対応することもある。
- ・卒業後の退職や転職の相談を受けることはできるが、学校側から積極的に関われる人的余裕がない。

② 今後の改善方策

- ・学生が安心して学業を続けられるための支援は学費の問題だけではなく、2年間の学生生活が充実しているかを実感し、共に学ぶ仲間の存在も大きいと考える。協働することが福祉の場では絶対に必要であるので、学生生活は協働で送るというプログラムを取り入れていく。
- ・同窓会の活動を活発化することで、同窓会奨学基金の存続できるようにする。
- ・学費の納入に関しては、保護者とも連絡を取り合い、納入時期や納入の仕方を柔軟に対応していく

(6) 教育環境 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目                                | 評価結果 |
|-------------------------------------|------|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか    | 3    |
| 学内外の実習施設、インターシップについて十分な教育体制を整備しているか | 4    |
| 防災に対する体制は整備されているか                   | 3    |

① 課題

- ・ICT環境の更なる整備をすることが課題である。
- ・学生の防災意識が希薄である。

② 今後の改善方策

- ・ICT環境の整備やパソコン等整備を適切に行う。
- ・学校全体でのリスクマネジメント計画を策定する。

(7) 学生の受入れ募集 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目                        | 評価結果 |
|-----------------------------|------|
| 学生募集活動は、適正に行われているか          | 4    |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4    |
| 学納金は妥当なものとなっているか            | 4    |

① 課題

- ・幅広い学生を募集する上で、社会人への広報アピールが効果的に行えていない。

② 今後の改善方策

- ・適時、広報会議を開催し教職員全員で広報活動を行うことを意識する。
- ・社会人が入学後のイメージが具体的にもてるように、学業優先でありながら家庭との両立ができるようスケジュールの提案をしていく。

(8) 財務 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目                      | 評価結果 |
|---------------------------|------|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定していえるといえるか | 3    |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか  | 3    |
| 財務について会計監査が適正に行われているか     | 4    |
| 財務情報公開の体制整備はできているか        | 4    |

① 課題

- ・安定経営のためには、入学者数の増加が必須である。

② 今後の改善方策

- ・中長期計画として、学生の定員充足を目指す。
- ・適切な予算の執行と適正な会計処理の実施。

(9) 法令等の遵守 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目                          | 評価結果 |
|-------------------------------|------|
| 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4    |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか    | 4    |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 3 |
| 自己評価結果を公開しているか        | 4 |

① 課題

・コロナ渦で、参集をとしての学校関係者評価委員会を開催するのが困難な状況であり、当初の予定より大幅に遅れた。

② 今後の改善方策

・コロナ渦の中で参集での会議ができない場合は WEB 会議を用いて、適切な時期に委員会ができるようにする。

(10) 社会貢献・地域貢献                      適切…4    ほぼ適切…3    やや不適切…2    不適切…1

| 評価項目  | 評価結果 |
|---|------|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか             | 4    |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | 3    |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3    |

① 課題

・コロナ感染症に感染（自身や同居家族）し、学校が欠席になり補講が入るなどで学生に学業以外に割ける時間が減ったことにより、課外活動には消極的になっていた。同じ理由で地域活動も同じ。

② 今後の改善方策

・感染症対策や新しい生活様式を遵守し、施設を利用した地域活動を模索し計画する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度の自己評価及び学校評価を実施することで、即効性の必要な課題や中長期計画をもとに目標を達成するために時間をかける必要性があるものを整理して2021年度の学校運営ができた。

連携施設との協働により、職業教育の中で学生に伝えるべきことを明確にできたことは大きな収穫であった。保育の分野を実践的に学んだ学生ではあるが、実際に就職した現場では、養護・介護・発達支援の関わりを多くもつということを教員は改めて知ることになり、自身の教科・科目の中に取理入れるべき事項の情報を蓄積できた。

教員が常に福祉の現場の今の情報を取り入れることで、保育士養成だけに特化するのではなく、「社会福祉に奉仕する」という建学の理念を体現できる人材育成ができたと考える。

学業に専念できない状況の学生に対しての効果的な対応策ができていないことを実感している。実用性のある支援を今後、講じていけるかが今後の課題である。